

審査の結果の要旨

氏名 別府 文隆

本研究は主に米国ヘルスコミュニケーション研究の先行研究や理論を参考に、日本における悉皆型郵送疫学調査（自記式）への参加動員のためのメディア・メッセージ構築ならびに、そのための概念モデルの構築と検討を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 米国ヘルスコミュニケーション領域で重視されている「purposive(目標的)なメディア・メッセージ構築」を志向し、先行研究や行動科学上の理論に依拠し (theory-based)、形成的調査に基づいて対象者に合わせたメッセージ開発を行った。具体的には、Ajzen による計画的行動理論 (TPB)、Petty & Cacioppo の精緻化見込みモデル(ELM)、知識・態度・実践(行動)に関する KAP モデルなどより、独自の「疫学調査(自記式)参加に関連する概念モデル」(Epidemiological Survey Participation Model: ESP モデル)を構築した。
2. ESP モデルの根幹を成す印象と参加意欲、番組構成要素の関連を中間変数として実際の疫学調査対象者へのアンケート調査によって評価し、映像メッセージによる悉皆疫学調査における参加者への研究理解・参加意欲の向上が確認できた。
3. さらに、形成的調査結果より、「疫学調査の意義がわからず、疫学調査への興味関心が低く、20 ページ以上の自記式アンケート用紙への嫌悪感・負担感が大きい」という対象者像が想定され、その対象者像にあったメディア・メッセージが構築できたことが示された。
4. 「疫学調査の印象」について主成分分析の結果「調査に対する主観的理解」「不利益感」「心理的障壁感」という3つの下位概念を抽出し、理論的検討を行った。それぞれ参加を促進する方向に有意に変化していることが示された。
5. ESP モデルに基づいたメッセージ開発コードも有効に機能し、「地元の風景」や「実際の対象者の出演」という要素が有意差を示し、参加意欲向上に貢献している可能性が示された。

以上、本論文は日本のローカルエリアにおける悉皆型の郵送疫学調査（自記式）参加動員のための心理概念モデルを提示し、より疫学調査参加への広報活動に有効なメディア・メッセージ構築のための基礎となる概念モデルならびに結果を提示し、ヘルスコミュニケーション領域の方法論の有効性を示した。また、本文以外の付録その他も今後の同様の研究取り組みに参考となる資料的価値を有する。

よって本論文は、疫学調査の参加に関する認知向上や普及啓発ならびに日本におけるヘルスコミュニケーション研究の普及に貢献するものであり、学位の授与に値するものと考えられる。